にいがた
グリーン
ツーリズム

にいがた

教育体験旅行ガイド

自然を相手に生きる人々に出会う旅







自然・景観

棚 田

米どころとして有名な新潟。県内には多くの棚田が点在し、春の水鏡のような美しさや、早朝の雲海に包まれた風景が人々を魅了します。



笹川流れ

透明度の高い海と雄大な造形が広がる県北の海岸景勝地です。日本海に沈む夕日とカモメに出会える遊覧船を楽しむことができます。



チューリップ

新潟県は栽培に適した肥沃な土地と気象条件に恵まれており、切り花出荷量は全国第1位を誇ります。春には一面満開の花のじゅうたんが広がります。



あ な た が 出 会 う 、



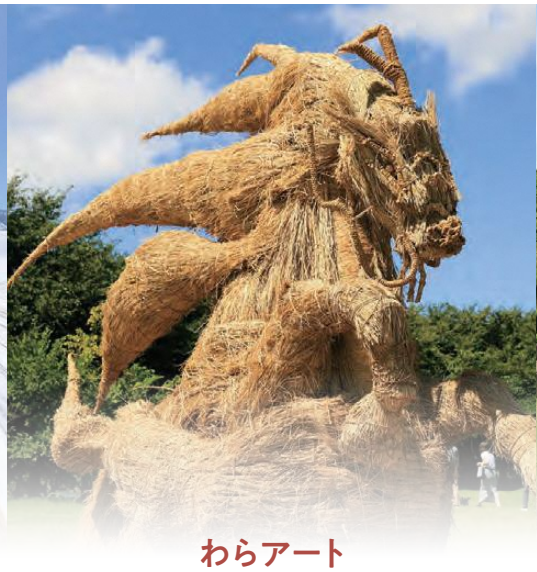
金属加工

金属加工の集積地として有名な燕三条地域は、ノーベル平和賞晩餐会のカトラリーを製造するなど、高い技術力を有するエリアです。



織物文化

冬場の生業として発展した織物は、布を漂白する「雪さらし」や着物作りの素材であるふのりを使った「へぎそば」として地域の暮らしに根付いています。



わらアート

わらは草履や米俵など、農家の生活用品として利用されてきました。新潟市西蒲区では稲わらを使用した巨大オブジェ「わらアート」まつりでにぎわいます。

工 芸

食・郷土料理

米

豊富な雪解け水と、雄大な越後山脈に囲まれた土地で育てられた新潟県産のお米は、産出額全国第1位を誇ります。



笹寿司

県土の広い新潟県は多くの食文化が残されています。防腐効果のある笹の葉の上にすし飯を詰めて、山菜などの具材をのせた笹寿司もその一つです。



鮭

鮭漁の盛んな県北では、百を超える鮭料理、鮭のために行われる神事などの独自の文化が生まれ、鮭と強い縁で結ばれています。

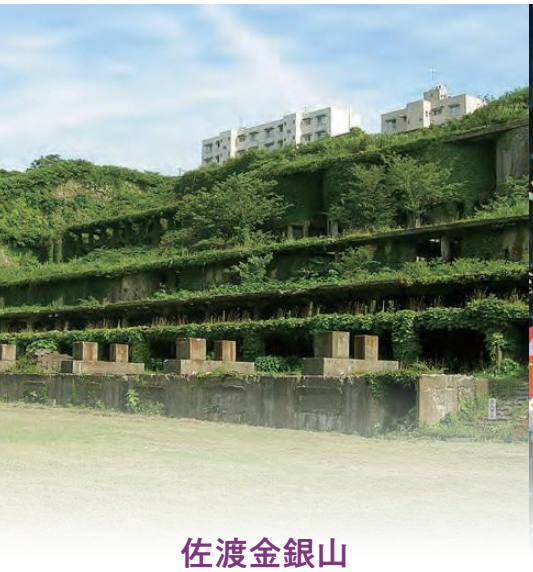


かんずり雪さらし

妙高地域の伝統の辛味調味料「かんずり」。唐辛子のアクを抜くための雪さらしは冬の風物詩として親しまれています。

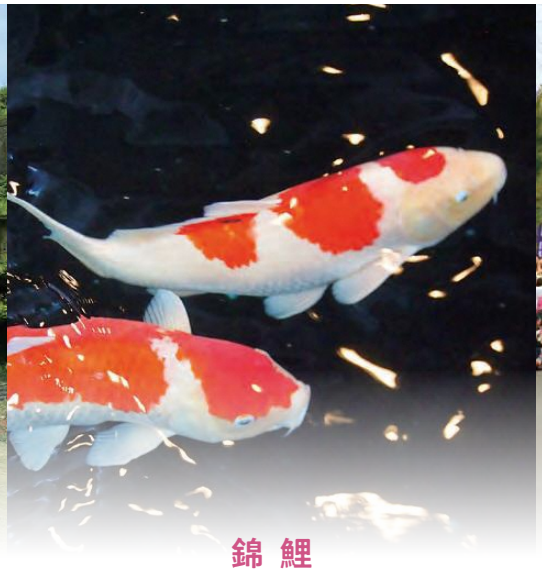


新潟のとっておき。



佐渡金銀山

江戸時代からの400年間に金78トン、銀2,330トンを産出した日本最大級の金銀山です。保存された坑道などの産業遺構からは壮大なスケールを感じることができます。



錦 鯉

数百万もの価格で取引されることもある錦鯉は、世界各国から「泳ぐ宝石」と賞されます。新潟県が発祥の地であり、国内随一の産地でもあります。



上杉謙信

越後の龍と呼ばれた謙信公は、義を重んじた戦国武将です。敵将武田信玄に塩を送った逸話から「敵に塩を送る」という故事が生まれたといわれています。

産業・文化・歴史



新潟で自然を体感しよう!!

新潟の農山漁村には、子どもたちの思考力、判断力、表現力を発揮できる場所があります。

新潟の自然?「田んぼ」「スキー場」…いえいえ、それだけではありません!!実は新潟県には、世界的に評価されている自然環境が数多くあります。新潟県では、ラムサール条約登録湿地の「尾瀬」「佐潟」「瓢湖」や日本で初めて世界ジオパークに認定された「糸魚川ユネスコ世界ジオパーク」をはじめ「佐渡ジオパーク」「苗場山麓ジオパーク」の3箇所のジオパークなどの素晴らしい大自然があり、優れた地域資源を生かし、理科や地理、歴史、文化などの充実した体験学習ができます。

ラムサール条約とは、水鳥の飛来地や希少な生物のすみかとして重要な湖・沼・湿地を保護するための条約です。本ガイドでは、本州最大の湿原である「尾瀬」での環境学習プログラムを紹介しており、3箇所のジオパークについてもそれぞれの特徴をとらえた魅力的なプログラムを紹介しています。

ジオパークとは、「地球・大地(ジオ:Geo)」と「公園(パーク:Park)」とを組み合わせた言葉で、「大地の公園」を意味し、地球(ジオ)を学び、丸ごと楽しむことができる場所をいいます。大地(ジオ)の上に広がる、動植物や生態系(エコ)の中で、私たち人(ヒト)は生活し、文化や産業などを築き、歴史を育んでいます。ジオパークでは、これらの「ジオ」「エコ」「ヒト」の3つの要素のつながりを楽しく知ることができます。それぞれバラバラにあるように思われるものが、すべて大地=地球を軸につながっており、地球(ジオ)と人々とのかかわりが感じられるストーリーがたくさん隠されています。ジオパークという視点を通して、「ジオ」と「エコ」と「ヒト」がどのように関わり存在しているのかを探ってみませんか。今まで気づかなかった大地の営みや自然をさらに深く楽しめるはずです。ジオストーリーを探ることで主体的な学びを展開でき、理解することでそれぞれの要素が、地球の営みが育んだものであることを実感することができるでしょう。

本ガイドブックでは、自然体験プランを中心にご紹介しておりますが、これらは、新潟県内で実施している体験プランのほんの一部です。他にも皆様のご要望に応じて、多彩なプランをご提案いたします。また、本ガイドブックに掲載している全てのプランは、「総合的な学習の時間」や教科等に位置付けることができ、道徳の目標を達成する一助となるように考えられています。

「新潟で自然を相手に生きる人々」が皆さんをサポートします。生きるための知識を学び、人生に活かせるような経験を新潟でしてみませんか?





安全安心な受入体制づくりをめざして



新潟県では、県内の教育旅行受入団体(市町村協議会・NPO等)を中心に構成する「新潟県グリーン・ツーリズム推進協議会」を設置し、県全域の受入レベル向上を目指して活動しています。

更なるレベルアップのため、実際に受入に携わる民宿・民泊の皆さんや体験指導者等を対象に2013年から「リスクマネジメント研修会」を毎年県内各地で実施するなど、より安全安心な体制で、皆様のお越しをお待ちしております。





新潟の人と自然が子どもたちをサポートします!



● 佐渡市高千（たかち）地区で受け入れをしている
荒木久夫さん 談

「自然の中で身を守る力、そして優しさを育んでほしい」

子どもの頃から高千の山や川で遊んだり、親について畑に行ったりする中で、山に対するマナーみたいなものを自然と覚えましたよね。一人ひとりがまず、ゴミを出さないとか、必要以上のものを採らないとか。山菜など採るときは、根を残すように鍬や鎌で間引きするように刈る。そうすると毎年採っても無くならない。また同じ所で同じだけ採れるんです。山野草も同じです。抜いてしまえば希少なものも一瞬で消えてしまいます。

山がきちんとしていると、海も豊かになります。山の栄養分が流れてきて、生物や海藻が増えて…という良い循環があるんでしょうね。潜ったり、船からのぞいたりするとよくわかります。

今は外遊びを知らない子どもたちばかり。高千の海や山、昔の遊びを教えてあげたいし、山野草のどれが食べられてどれが毒があるのか。虫や蛇もどれに注意しなきゃいけないのか教えてあげたい。子どもたちに自分で自分の身を守る力をつけてほしいですね。一緒に遊びながら教えてあげると、楽しみながら覚えていく。そうやって体験を重ねることで、自然にも優しくなれると思うんです。





目次

新潟県の紹介 2.3
新潟で自然を体感しよう! 4.5
大地の躍動とヒスイ文化 6.7
雪のふる里　河岸段丘と縄文文化 8.9
佐渡でめぐる大地と人の物語 10.11
世界農業遺産認定「トキと共生する佐渡の里山」 12.13
本州最大の湿原を持つ「尾瀬」に学ぶ 14.15
四季の雪国の里山で学び・楽しむ 16.17
日本一の大河・信濃川ラフティングツアー 18
コシヒカリのふるさとでお米を学ぶ 19
「雪のくに」魚沼で「夏に!」雪を学ぶ 20
妙高山麓「雪の学校」 21
伝統文化を守る職人の想いにふれる 22
地域を知り、地域を学ぶ
「織物文化とそば文化が融合した町」 23
震災からの復興と伝統と故郷を守る「人の力」 24.25
農村生活体験・民泊体験&探究学習 26
城下町村上の「町屋再生プロジェクト」 27
微細米粉発祥の地「胎内」で米粉を学ぶ 28
日本初の公立教育ファーム「新潟市アグリパーク」 29
SDGs未来都市で探求学習 30.31
「スノーリゾート新潟」で体験するウィンタースポーツ 32
にいがたの農村漁村で生活体験 33
アクセス、モニターツアーのご案内 34.35

大地の躍動とヒスイ文化 糸魚川（いといがわ）ユネスコ世界ジオパーク

5億年の大地の歴史とフォッサマグナ



学びのポイント

- 日本列島の誕生に関わるダイナミックな地殻変動の痕跡を実際に観察して理解を深める

モデルコースで学べるポイント

- フォッサマグナの形成と日本列島誕生
- 大地の成り立ちと変化
- 地球の営みと火山の働き
- 世界最古のヒスイ文化

糸魚川ユネスコ世界ジオパークは、日本列島を東西に分ける大地溝帯（だいちこうたい）「フォッサマグナ」の西の端「糸魚川ー静岡構造線」の断層や日本海から北アルプスまで広がる豊かな自然、変化に富んだ地形、伝統文化と歴史、そして貴重な鉱物や地質など学習ポイントが満載です。2009年には、日本初の世界ジオパークとなり、2015年にはジオパークはユネスコの正式なプログラムに昇格しました。世界に認められた多彩な体験フィールドを生かし、1日で大地の魅力を見て、触れて、学ぶことができます。

フォッサマグナミュージアムで学ぶ

「フォッサマグナ」。言葉を知っていてもその意味と歴史について理解している人は少ないのではないでしょうか。「フォッサマグナ」を知ることは、大地・地球を学ぶことであり、また、私たちのルーツについて考えるきっかけにもつながります。フォッサマグナミュージアムは、糸魚川ユネスコ世界ジオパークの情報発信センターです。ヒスイや世界各地の様々な岩石・鉱物をはじめ、日本列島の成り立ちを学べる巨大シアター、「フォッサマグナ」を発見したナウマン博士の遺品などの貴重な資料が展示されており、併せて岩石・鉱物・化石の学習ができます。小麦粉を使ったフォッサマグナ形成実験や溶岩噴出実験、電子顕微鏡等による岩石・鉱物観察などを体験してみましょう。



日本列島まっぷたつ！大きな溝を見てみよう

断層破砕帯をはさんで、東側の約1600万年前の岩石と、西側の約2億7千万年前の岩石が接している様子を間近で観察できます。

「フォッサマグナ」って何だろう!?





ヒスイの原石や地層模型の展示などを見学できます。

フォッサマグナパークで学ぶ（国天然記念物）

その昔、日本列島がアジア大陸から離れる時にできた巨大な裂け目がフォッサマグナです。フォッサマグナの西端には大きな断層があり、これが日本列島の東西境界、糸魚川ー静岡構造線です。まさにその境目がフォッサマグナパークで見学できます。晴れた日には、美山公園展望台から、山々が断層に沿って削られてできた雄大な谷地形が一望できます。日本列島誕生の秘密を解くカギを探してみませんか。

海の中のサンゴ礁が山に？

小滝川ヒスイ峡（国天然記念物）は、糸魚川に世界最古のヒスイ文化をもたらした国内随一のヒスイ産地です。ヒスイの発見は、日本各地の遺跡から出土するヒスイの由来を決定した重要な発見であり、考古学・宝石学の分野へ大きな影響を与えました。ヒスイ峡では、清流に洗われた約100個のヒスイ原石が保護されています。ヒスイの原石を間近に見学でき、実際に触れることもできます。ヒスイ峡に迫る明星山の大岩壁は、約3億年前の熱帯付近の海底火山にできたサンゴ礁がプレート運動で隆起したもので、多くの化石を含む石灰岩からできています。



小滝川ヒスイ峡



天下の険
親不知（おやしらず）
旧北陸道の最大の難所であった断崖に道路や鉄道を切り開いた歴史などを学習できます。



明星山と静かな高浪（たかなみ）の池

石にも名前と年齢がある？



糸魚川の高い山々は、様々な種類・時代の岩石からできていて、そこから流れる急な川は多くの小石を海まで運びます。そのため、糸魚川の海岸には日本一といわれる種類の小石が広がっています。石にも人と同じように名前と年齢があり、石の名前がわかると、昔、糸魚川でどんな大地の事件があったのかがわかります。石の身の上話は、フォッサマグナミュージアムで聞いてみましょう。

「化石」ってどんなもの？



フォッサマグナミュージアム敷地内の「化石の谷」では、化石探し体験もできます。サンゴや三葉虫などの化石を掘り出せるかもしれません。

見どころダイジェストモデルコース

日本列島の誕生と世界最古のヒスイ文化コース

90分	10分	60分	40分	60分	50分	60分	10分	50分
フォッサマグナミュージアム		フォッサマグナパーク		小滝川ヒスイ峡		天下の険 親不知		親不知海岸
糸魚川市大字一ノ宮1313		糸魚川市大字根小屋2484-1		糸魚川市大字小滝		糸魚川市大字市振		糸魚川市大字外波903-1

糸魚川ジオパーク協議会
糸魚川市商工観光課ジオパーク推進室
糸魚川市一の宮1-2-5
TEL：025-552-1511（代表）　FAX：025-552-7372
mail：geopark@city.itoigawa.lg.jp

翠の里 糸魚川ツーリズム推進協議会
（一社）糸魚川市観光協会
糸魚川市大町1-7-47 糸魚川ジオステーションジオパル内
TEL：025-555-7344　FAX：025-555-7364
mail：itoigawa-kanko@ae.wakwak.com

雪のふる里 河岸段丘と縄文文化 苗場山麓ジオパーク

大地に根づいた縄文時代から続く暮らしを学ぶ

学びのポイント



- 火山の噴火や川のはたらきのすごさを目の前にし、大地が生きていることを実感する
- 自然と共生することを諸感覚を通し、体感しながら学ぶ

モデルコースで学べるポイント



- 河川作用と段丘形成
- 火山活動や地震などの災害の痕跡
- 湧水
- 火焔型土器（かえんがた）など縄文文化
- 雪国の文化とくらし

苗場山麓ジオパークは、奥信越と呼ばれる新潟県津南町・長野県栄村からなる日本有数の豪雪地帯です。私たちの祖先は、多雪という環境に適応して河岸段丘（かがんだんきゅう）に暮らし、豊かな湧水や動植物の恩恵を受け、歴史を紡いできました。縄文時代の遺跡が多く発掘され、火焔型土器に代表される当時の暮らしを見ることができます。約1万年間、森と生きた縄文時代の人々に習い、自然と共生することを諸感覚を通し、体感しながら学ぶ場所、それが苗場山麓ジオパークです。



川の展望台から見た日本有数の河岸段丘

苗場山麓ジオパークの特徴

苗場山麓ジオパークの特徴の1つが、およそ40万年かけて地球規模の気候変動と川のはたらきによってつくられた日本有数の階段状の地形（河岸段丘）です。さらに、苗場山や鳥甲山（とりかぶとやま）の溶岩からなる、見る者を圧倒する柱状節理（ちゅうじょうせつり）の岩壁、かつて海だった信濃川左岸の地層や地滑り地形、風穴（ふうけつ）など大地の躍動を感じられる場所が多数あります。

そして苗場山麓では、毎年平均3mもの雪が降り積もります。大地の動きによる三国山地の形成と日本海へ暖流が流れ込むという2つの条件が合わさって、約8000年前から大量の雪が降るようになりました。そして、この「多雪」に適応した多様な動植物や、1万年間森と共生した縄文文化、現代へと続く雪国文化などの人々の暮らしが息づいています。

なぜ、この雪深い地域が縄文文化の里になったのでしょうか

河岸段丘の上は平坦で生活しやすい上、信濃川から離れているので洪水の心配がありません。また、森にも近いので木の実や動物などの食料の調達も容易です。なにより、この地域は苗場山の溶岩層のおかげで段丘の縁から地下水が湧き出すところが多くあり、そうした湧水点の近くに集落が発達したことが伺えます。実際に、名水地「龍ヶ窪」の池周辺には立石遺跡が発見されており、火焔型土器が出土した沖ノ原遺跡（国指定史跡）の脇には清水が流れていたことが知られています。

布岩山の見事な柱状節理





農と縄文の体験実習館「なじょもん」で縄文時代の生活を体験!

縄文時代の人々が生み出してきた大切な生活の知恵と様々な手仕事を体験することができます。火起こし、弓矢や土器づくり、まが玉つくり、アンギン編みなど…竪穴住居が復元された縄文ムラを舞台に縄文人の暮らしを体験できます。

縄文人は自分で材料を集めて必要な道具をつくっていました。道具がどのようにつくられ、どのように使われてきたかを体験を通して考えてみましょう。



本物の火焔型土器に触れてみる



河岸段丘面上には、全国的にも貴重な遺跡が数多く残されており、「なじょもん」では、津南町の遺跡から発掘された縄文土器や石器などが見学できます。ガラスケースのない整理棚に並べられた約5000年前の土器などは、実際に触ることができます。



津南町指定文化財
道尻手遺跡出土の火焔型土器

見どころダイジェストモデルコース

なじょもん	20分	川の展望台	20分	龍ヶ窪	30分	石落し	5分	見玉不動尊
津南町大字下船渡乙 835		津南町上郷上田		津南町谷内		津南町秋成（津南見玉公園）		津南町秋成 9761

立体模型からジオサイト巡りのコースを確認します



川の展望台
展望台から、三国連山と河岸段丘、信濃川を一望できます



龍ヶ窪
日本百名水のひとつ
龍神伝説の残る神秘的な池です



石落し
約 30 万年前に噴火した苗場山の溶岩でできた大スケールの岩壁です



見玉不動尊
平清盛の臣下が不動明王を安置したと言われています

苗場山麓ジオパーク振興協議会
津南町教育委員会ジオパーク推進室
（農と縄文の体験実習館「なじょもん」）
中魚沼郡津南町下船渡乙835
TEL：025-765-1600　FAX：025-765-5511
mail：naeba36@naeba-geo.org

津南町
津南町役場観光地域づくり課
中魚沼郡津南町下船渡戊585
TEL：025-765-5454　FAX：025-765-4625
mail：chiiki@town.tsunan.niigata.jp

佐渡でめぐる大地と人の物語
佐渡ジオパーク

佐渡は島全体がジオパーク！ 大地と人々の暮らしはつながっている

学びのポイント

- 佐渡の成り立ちが島の人々の暮らしに関係していることを探る
- 日本海や日本列島の成り立ちを理解する
- 大地から人の暮らしのつながりを見出す視点を育む

モデルコースで学べるポイント

- 小判ができるまでの工程
- 金銀鉱石を砕くために使われた石うす
- 人々の暮らしの中にある金銀山とは?
- 大昔の火山活動がもたらした金銀山の繁栄

佐渡は島全体がジオパーク! 大地と人々の暮らしはつながっています。佐渡島は、江戸時代からの金銀採掘の歴史を学ぶことができる史跡佐渡金銀山遺跡があり、2008年に自然放鳥が開始され、島内に400羽以上が定着（2019年12月現在）したトキが舞う島です。大昔の火山活動、日本海の形成、島の隆起…佐渡島の成り立ちは、島に生きる動植物や人々の暮らしに何かしらの影響を与えています。大地から人の暮らしまで、つながりを感じ、学び、楽しむことができる場所。それが佐渡ジオパークです。大地から人の暮らしまでのつながりを見出す「視点」を佐渡ジオパークから持ち帰り、改めて自分たちの地域を見つめ直すことで、よりいっそう自分たちの住む地域を詳しく知るきっかけとなります。また、普段見ている風景は長い年月をかけて作られたものであり、そこに生きる動植物や人の暮らしと大地がつながっていることを実感することができます。



吹上海岸

見どころダイジェストモデルコース

石うすでたどる金銀山コース
～黄金の島を作った奇跡の出会い～

「ある道具」をキーワードに島の成り立ち・火山活動・地殻変動までが関係する謎解きをしていこう!「ある道具」の正体とは？

- きらりうむ佐渡（50分）
  佐渡市相川三町目浜町18番地1
- 5分
- 相川夕白町石垣（20分）
  佐渡市相川夕白町
  訪れた場所で、主体的な学びが展開されるようにヒントをもとに「あるもの」を探します
- 5分
- 金山第3駐車場（15分）
- 40分
- 佐渡金山（宗太夫坑）
  佐渡市下相川1305
- 5分
- 佐渡奉行所跡（50分）
  佐渡市相川広間町1-1
  金銀鉱脈の発見により、佐渡は「天領」となり、佐渡奉行所が置かれました
- 5分
- 吹上海岸（15分）
  佐渡市下相川



新潟県と佐渡市は「佐渡金銀山の世界遺産登録」に向け、取り組んでいます。県内学校については、佐渡金銀山について出前授業を実施しており、ホームページで情報発信も行っていますので、ぜひ事前学習にご活用ください。

お問い合わせ

- 佐渡市以外の学校
  新潟県教育庁文化行政課
  TEL：025-280-5726
- 佐渡市内の学校
  佐渡市世界遺産推進課
  TEL：0259-63-5136

佐渡金銀山ガイダンス施設 きらりうむ佐渡

佐渡金銀山の玄関口として、遺跡全体の価値をわかりやすく解説し、現地を見学するための拠点となる施設です。佐渡金銀山の成り立ちなどを学べます。



相川夕白町の石垣

埋め込まれているものに注目!

石垣をよく観察してみてください。気づきましたか?そうです!石うすが埋め込まれています。

大正以降に作られた石垣には、装飾として石うすが使われることがあります。



きらりうむ佐渡

佐渡奉行所跡では、石うすを回す体験ができます



佐渡奉行所跡

「宗太夫坑」は江戸初期に開発された手掘りの坑道です

地下深く掘り進んだ坑道内では、「佐渡金山絵巻」に描かれている坑道内の作業が忠実に再現されています



佐渡金銀山遺跡



弁慶のはさみ岩（吹上海岸）



石うすとして利用された
球顆流紋岩
（きゅうかりゅうもんがん）

吹上海岸を探すと目玉模様の岩が?

海岸にはまるで目玉のような粒が入った岩があります。

粒はとても固いため、同じく固い金銀鉱石を砕く石うすに最適でした。

(受験に)「落ちない岩」現状で頑張る「ふんばる岩」

昔、大男の弁慶が岩を遠くまで投げ飛ばし、この場所に挟まったという伝説があります。

しかし、ここは江戸時代に石うすの材料である岩を切り出した石切り場。はさみ岩は、石を切り出す際に挟まってしまった岩だったのです。



佐渡ジオパーク推進協議会
佐渡市教育委員会 社会教育課 ジオパーク推進室
佐渡市両津湊198番地(佐渡島開発総合センター2F)
TEL：0259-27-2162　FAX：0259-58-7357
mail：sado-geopark@city.sado.niigata.jp

(一社)佐渡観光交流機構 事業本部
佐渡市両津湊353番地
TEL：0259-58-7285　FAX：0259-23-5030
(月～金曜日の8:30～17:30)
mail：info@visitsado.com

世界農業遺産認定「トキと共生する佐渡の里山」

受け継がれ・次世代へ継承していく、生きものが豊かな里山環境と農村文化

学びのポイント

- 佐渡で、トキをはじめ多種多様な動植物が棲む里山環境を、どのように守っているか調べる
- 自分の暮らしの中で、身近にある生物の多様性や貴重な資源などについて考えてみる
- 農業が食糧を作るだけではなく、美しい景観や多様な農村文化を育んでいることを理解する
- 地域の人々が受け継いできた農村文化を継承し守り続けていく大切さを理解する

世界農業遺産（Globally Important Agricultural Heritage Systems）とは

GIAHS（ジアス）とは、グローバル化が進む中で衰退していく昔からある伝統的な農業や文化、地域の景観などを次世代まで残しながら活用していくことを目的に、2002年、国連食糧農業機関（FAO）が開始したプログラムで、2011年に日本で初めて佐渡市と石川県能登地域が認定されています。

美しい農村景観を守り伝えるために

佐渡では特徴的な地形や地質を活用した棚田・集落を舞台に、棚田オーナー制度や散策ツアーを実施し、トキが棲める豊かな里山環境を取り戻すために田んぼの生態系に配慮した米づくりが展開されています。

また、世界農業遺産に認定され、現在まで継承されてきた農村文化や田園風景といった伝統的な農業を未来に継承し、農村地域の復興・活性化につなげようとする取り組みがなされています。



岩首昇竜棚田



豊かな里山環境を取り戻すには？

「万葉集」にも登場した日本のトキは、乱獲や効率性を重視した農業などによって餌場を失い、佐渡の地を最後に絶滅しました。一方、中国から贈られたトキの人工繁殖が始まり、飼育したトキを野生復帰させるため、ビオトープの設置や田んぼの生きものを増やす「生きものを育む農法」が行われています。これらの取組によって豊かな生態系につながる里山環境を取り戻し、トキが再び佐渡の空を舞うようになりました。里山環境を取り戻すための努力やトキの野生復帰について学びます。

トキの餌を調べよう

トキの餌となる生きものをビオトープや田んぼなどで採って、観察したり種類を調べて記録します。そして、生きものが棲みやすい環境と農業の関係について考えます。



トキを観察しよう!

トキの森公園内にある「トキふれあいプラザ」では、自然に近い環境を再現した大型ケージの中でトキを飼育しています。飛翔した姿や餌の採り方、巣作りなどトキの生態をより近い場所で観察することができます。

なぜ、佐渡の農村文化は継承し、守られてきたの？

金銀山の隆盛、北前船の寄港による各地との交流、島流しにされた貴族や文化人がもたらした文化や芸能が、佐渡の地で息づき、人々の暮らしに溶け込んでいることを理解するため、島の芸能に触れ、体験することができます。

ユネスコ無形文化遺産

能



農民が神社への奉納神事として楽しんできたんだね

佐渡は、能の大成者「世阿弥」配流の地。江戸時代に入ると金銀山と共に栄えた鉱山の町・相川を中心に広まり、農村部でも畑仕事で謡曲を口ずさむほど親しまれるようになったと言われています。能舞台での所作、声の出し方、姿勢などを学び、さらには「仕舞」という能の一部を謡に合わせて舞う体験ができます。

鬼太鼓





鬼太鼓は、佐渡で伝承されている神事芸能で、集落の祭りで五穀豊穣・家内安全を祈願し、厄を払う大切な役目を担っています。集落毎に受け継がれ、現在、約120集落で若者を中心に代々受け継がれています。太鼓のリズムを覚えて叩いたり、鬼の舞を習って、太鼓に合わせて舞う体験ができます。

集落毎に受け継がれることで、住民同士結束し、助け合って行う農業の共同作業性も高まり、農業や農地を守ってこれたんだね

国の重要無形民俗文化財

文弥人形



文弥人形は、明治時代に人形芝居と文弥節が結びついた形で広まり、昭和の中ごろまでは農閑期や祭りなどで披露され、人々の娯楽になりました。文弥人形芝居を鑑賞したり、実際に人形を持って動かす体験ができます。

和太鼓に触れてみよう!



たたこう館体験風景

佐渡を拠点に国際的な活動を行っている太鼓芸能集団「鼓童」が運営する佐渡太鼓体験交流館では、だれでも楽しく太鼓体験ができます。この施設は、通年で太鼓体験（要予約）を実施しております。樹齢推定600年のケヤキ大太鼓（2台）も常設されており、大迫力の重低音を体感できます。

（一社）佐渡観光交流機構 事業本部
佐渡市両津湊353番地
TEL：0259-58-7285　FAX：0259-23-5030
（月～金曜日の8:30～17:30）
mail：info@visitsado.com

本州最大の湿原を持つ「尾瀬」に

魚沼から行く「尾瀬」環境学習プログラム

学びのポイント

- 日本最大級の水力発電用ダム「奥只見ダム」について学ぶ
- 開発と自然保護の歴史を学び、電力と自然との共生について考える
- 本州最大の湿原の中で生きる動植物の生態を観察し、動植物を保護するためのマナーやルールを理解して身につける



本プログラムの特徴は、魚沼市から奥只見湖を船で渡り尾瀬に向かうルートで環境学習を行うことです。湖上では、神秘に満ちた美しい景観を堪能でき、また再生可能な自然エネルギーである水力発電の奥只見ダム開発と自然保護の歴史も学ぶことができます。

尾瀬は、「国立公園」、「特別天然記念物」、「ラムサール条約湿地」に指定されており、豊かな自然に育まれた希少生物が、絶妙な生態系を保ちながら生息しているところです。その一方で、多くのハイカーが訪れることによる自然破壊が問題となり、環境保全のために様々な対策がとられてきました。尾瀬は、「自然保護運動の原点」と言われています。

奥只見・尾瀬での体験学習を通して、子どもたちは自然の雄大さや巧妙さに驚き、感動し、加えて、環境保全に全力を注いでいる人々の営みや奥只見ダム開発の歴史に触れ、自然や命を守ることの大切さを身に染みて感じることができます。同時に、開発と環境保全の関係についても考えを巡らすことができます。

また、この体験学習プログラムは「自然との調和を図りながら、人々が自然とともに生活するために、自分たちは何をどうしていけばよいのだろう?」といった深まりのある具体的・実践的な学習ができるようになっています。

ダム見学

ダムマニア垂涎!!
エレベーターで、一気に
普段は入れない地下発電所へ!



安全のためヘルメットをかぶりエレベーター２本を乗り継いでダムの最下部へ。巨大な地下発電室です。







ダムの内部は外気の入らない空間。夏でも約10℃、ヒンヤリ感じます。



４号水車発電機のシャフト



水車と発電機を直結しており、毎分214回転します。





学ぶ



教えてくれるのはどんな人？

新潟県魚沼市から行く尾瀬ルートは、尾瀬の魅力満載。季節ごとに移り変わる尾瀬の景色を存分に楽しむことができるルートです。魚沼市内から入山するコースは、初心者の方でも手軽に無理なく尾瀬を楽しむことができます。尾瀬に精通した尾瀬環境学習ガイドが同行し、各所で尾瀬特有の環境学習の視点を投げかけ、自然環境についてや、自然と人間の関わりについて、子どもたちの学びを促進していきます。



プログラムに無いけど、ちょっといいところ

バスで高速を降りるとすぐ、響の森公園があります。ここで先ずはお弁当で腹ごしらえ。そして!ここには芝生の上で、1学年全員が思いきり自由に走り回れる直径80mの芝生の円形広場があるので、バスで縮こまった身体を思い切り伸ばして仲間と自由に遊べます。

事前事後学習

尾瀬沼へは2日目に行きますが、前日1日目の夜には「尾瀬沼」についての事前学習を行い、出発前に押さえておきたいポイントを確認します。また、帰り道のバスを待つ間に、感じたことや考えたことなど、記憶の薄れないうちに発表する振り返りの時間をとります。



バス待ち時間に振り返り

児童生徒用の教材と教師用の手引き書があります。



プログラムは、
「尾瀬環境学習マップ(尾瀬沼編、尾瀬ヶ原編)」、
「教師用手引書」、「ワークシート」で
構成されています

「尾瀬環境学習マップ(尾瀬沼編、尾瀬ヶ原編)」、「教師用手引書」は、「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会事務局((一社)魚沼市観光協会)において尾瀬環境学習実施校に対して無償配付しています







電力館には、尾瀬の自然やダムの歴史を紹介する映像シアターや水力発電の仕組みについて学べる資料があります。

奥只見ダムと尾瀬沼を訪ねてみて…首都圏との関係

新潟の雨と雪が…

奥只見ダムの源流は、尾瀬沼の水。
奥只見ダムの地下発電所で作られた電気は、東京電力に7割が送電されます。首都圏で使用される電力の一部は、ここで作られているのです。自分の生活する地域と奥只見・尾瀬との関わりも考えてみましょう。

一般社団法人魚沼市観光協会
魚沼市吉田1144
TEL：025-792-7300　FAX：025-792-7200
mail：kanko@iine-uonuma.jp

四季の雪国の里山で学び・楽しむ

人の手が入った自然と自然を利用した「里山」の四季

学びのポイント

- 豪雪地帯の里山の自然を観察して、雪国ならではのブナの生態を調べる
- 人と自然のつながりや自分と自然との関わり方などを考える
- 自然の中で厳しい冬を力強く生き抜く動植物を観察する
- 四季それぞれの自然の魅力や楽しさを体感する



ブナの林を歩くと、ふかふかの絨毯の上を歩いているような感触なのはなぜかな？

なぜ里山にブナ林があるの？

ブナ林は関東付近では標高1,000m前後に分布していますが、日本有数の豪雪地帯の松之山では、標高200m付近の人々の生活圏に隣接してブナ林があります。ブナ林が集落や棚田の近くにあることで人々の生活とどうつながるのか探ってみませんか。

雪が守ってくれる！

標高が低いけれど豪雪地帯のこの地域では、雪が乾燥に弱いブナの種子を守り、ネズミなどからも守ってくれます。また、他の樹木が寝てしまうような雪圧でも、ブナは直立できるほど雪圧に強いので、ブナ林が育ちます。

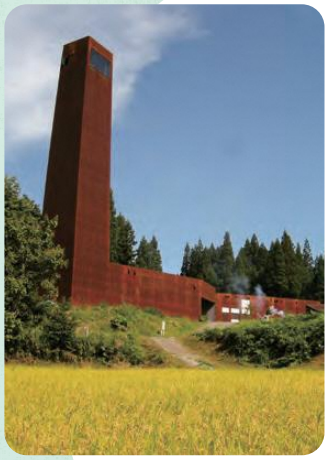


乾燥に弱いブナの種が発芽してる！



根元は曲がってるね

ブナ林の土は、「自然のダム」と言われるくらい抜群の貯水力があります。ブナ林の中に池を作ると、ブナ林で降った雪や雨が、染み出て池に貯まるので、棚田の米作りに利用されます。お米と雪がブナ林を介してつながっているのです。



十日町市立 里山科学館越後松之山「森の学校」キョロロ

日本有数の豪雪地帯ならではの里山の自然や文化を楽しく展示する科学館。周辺には里山を整備して作られた自然観察フィールド「キョロロの森」や日本一美しいブナ林「美人林」があり、様々な野外体験を楽しむことができます。

里山の水辺も観察！

水辺の生き物調査もしてみましょう。普段見ることのできない水生昆虫などを採集して観察することができます。





雪だるまつくろう〜♪

スノーシューで雪の上を歩く

雪のない季節には歩けない木々に覆われた森の中を雪の上ならスノーシューを履くことで自由に歩き回ることができます。日本有数の豪雪地帯の全て雪に覆われた美しい白い世界で自然の息吹を感じてみませんか。

一見、何も無いように見える景色も目をこらしてみると、雪の上には鳥や動物の足跡、樹木にはキツツキの開けた穴、野ウサギがかじった跡、春の芽吹きを待ち望んでいる冬芽などが見えてきます。じっくり観察してください。厳しい冬の寒さに耐えながら力強く生き抜く様子が伺え、自然の力強さを感じることができます。積もった雪の分だけ背の高い木々にも近づくことができ、普段とは異なる視点から観察できるので、新しい発見があるかもしれません。里山散歩で季節の動植物の様子をじっくり観察してみましょう。

新雪にダイブ!



ヤドリギ発見!







キャンドルロードつくり



雪を楽しむ

そりやかまくら、雪合戦など普段あまり接したことがない雪とふれあい、親しんでみてください。遊びの中で雪の特性を学び、雪の中での安全な動作を身につけることができます。

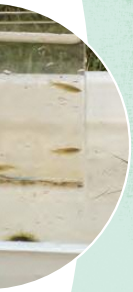
雪原を観察

誰の足跡?





草も凍ってる!



越後田舎体験推進協議会
(公社)上越観光コンベンション協会
上越市西本町4-18-12 直江津屋台会館内
TEL：025-543-2777　FAX：025-545-1113
mail：jtca@joetsu.ne.jp

越後妻有田舎体験推進協議会
㈱HOME HOME NIIGATA
十日町市馬場丁1253-2
TEL：050-3553-4418　FAX：025-755-5103
mail：akira_i@homehome.jp

日本一の大河・信濃川ラフティングツアー

豊富な雪解け水をたたえる信濃川で水の力を体感！

学びのポイント

- 川で流れる水の力を体感し、チームで力を合わせて達成することの大切さを学ぶ
- 川の特徴を理解し、川での安全な過ごし方を学んで川に親しむ
- 川の美しい景観を形成する多様な生態系を観察し、環境保全について考えてみる



「信濃川」ってどんな川？

日本一長い川「信濃川」。この川は、長野県では「千曲川」、新潟県に入ると名前が「信濃川」に変わります。新潟県側では、日本海側特有の気候で日本有数の豪雪地帯を流れるため、流水量も日本一です。

この豊富な流れは流域の豊かな自然を育み、肥沃な穀倉地帯を形成してきました。地形を見ると、県境の山間部は日本でも典型的な河岸段丘で下流部は信濃川の流下土砂により形成された豊かな越後平野が広がっており、緩急の流れにより情緒豊かな川となっています。時には洪水等の被害ももたらす「川」と「人々の暮らし」との共生について考えてみましょう。

水の力を体感!!

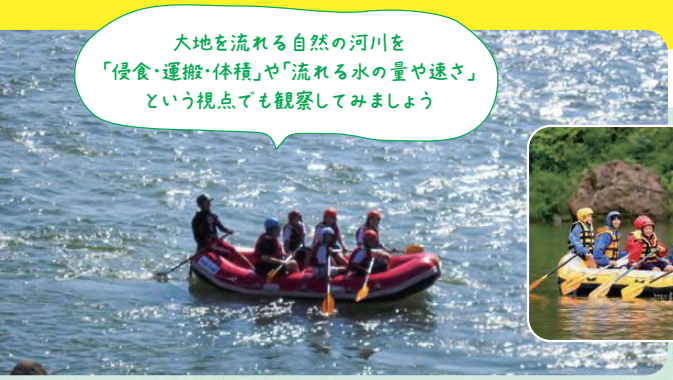
信濃川には激流ポイントが5つあります。決して意のままにならない水の流れに、力まかせで挑むのではなく、みんなで息を合わせてチームワーク良く激流を乗り切れば、仲間との連帯感や協調性を生み出し、格別な爽快感と達成感を得られるでしょう。



川での安全について

川に入る前に先ずはライフジャケットの重要性や川での危険箇所や危険な行為、自分や周りの人が川に落ちた時の対処法などを学びます。

緩やかな流れの所では、動植物の観察や河岸段丘・棚田など周りの景色も楽しんでください。ガイドさんが泳いでもOKなポイントに連れて行ってくれたら、川に飛び込んでもOKです。存分に信濃川を堪能してください。



越後妻有田舎体験推進協議会
㈱HOME HOME NIIGATA
十日町市馬場丁1253-2
TEL：050-3553-4418　FAX：025-755-5103
mail：akira_i@homehome.jp

コシヒカリのふるさとで お米を学ぶ

雪解け水が育む美味しいお米

学びのポイント

- 実際に現地で農地や用水路などを見たり、田んぼの泥の感触、手植えの大変さを体験する
- 農家の人々へ生産の努力や工夫などをインタビューすることで、農業への意識・理解を深め、食べ物や命の大切さについて考える態度を養う
- 米を中心に栄えてきた農村地帯の生活文化を学び、実際に体験して理解を深める



「魚沼産コシヒカリ」の田植え体験

美味しい魚沼産コシヒカリを作っている地域の人たちと一緒に田植えをします。泥の感触を肌で感じながら、米作りの面白さと大変さを体験します。

農家の皆さんから昔と今の農作業の違い、米作りについての苦労や工夫と努力などの話を伺い、米一粒の大切さを学び、食の安全安心、生態系の保全、景観形成などについても広く考えてみましょう。

また「なぜ、この地域では美味しいお米がとれるのか?」といった気候や地形など環境との関係性についてもお話しします。

ぬか釜でご飯を炊いてみよう!

「ぬか」とは、もみすりした時にでる「もみ殻」のこと。それを捨てること無く、杉の葉と共に燃料に使用して美味しく炊きます。昔から伝わるエコな炊飯方法です。炊きあげに約20分。火力が強く、おこげもできて、香ばしさも加わり美味しさがさらに倍増!電気もガスも使わない炊飯体験です。





燃料は、お米のもみ殻と杉の葉っぱ

南魚沼市グリーン・ツーリズム推進協議会

(一社)南魚沼市観光協会
南魚沼市下一日市855(道の駅南魚沼)
TEL：025-783-3377　FAX：025-783-3388
mail：inf@m-uonuma.jp

SDGs対応団体(ご相談ください)

「雪のくに」魚沼で「夏に!」雪を学ぶ



夏に「雪のくに」を感じることのできる「雪室」見学

日本有数の豪雪地帯で夏に雪国の暮らしを学ぶ

学びのポイント

- 雪と共に生きる豪雪地帯の人々の暮らしの知恵を学ぶ
- 自然エネルギーとしての「雪」の利活用について学ぶ
- 「万年雪」に触れ、世界的に減少している氷河や気象などの環境問題について調べてみる

雪に触れる

標高700mの奥只見湖銀山平キャンプ場には、毎年5月いっぱいまで雪が残ります。残雪を利用した雪遊びも魅力ですが、新緑と残雪のコントラストが美しい奥只見湖の遊覧船からの眺めも好評です。また、キャンプ場から90分のハイキングで行ける万年雪エリアでは、この地域の雪の多さを感じさせてくれます。







天然の冷蔵庫「雪室」

雪の利用について考える

近年、あらゆる分野での自然エネルギーの活用の研究が進められており、豪雪地でも雪を自然エネルギーとして利用した夏の冷房システムや低温貯蔵などが開発されています。雪を利用した天然冷蔵庫「雪室」を使った「魚沼産コシヒカリ」の低温貯蔵倉庫や雪室貯蔵の酒蔵「越後ゆきくら館」の見学ができます。雪で保存する利点や雪を活かすアイディアなどを考えてみませんか。

雪国の暮らしの工夫を取材!

雪のない時期の町並みにも「雪国の暮らし」を見ることができます。「村中ウォークラリー」をして、縦に並んだ信号機や消雪パイプ、高さ4m近くに設けられた防火水槽の取水口など、道路上の工夫や各家庭における数々の工夫を見ることができます。民家訪問をして、雪国の暮らしについて直接インタビューして、自分の住んでいる地域との違いをいろいろな面から考えてみましょう。



村中ウォークラリー





雪が自然落下する「かまぼこ型倉庫」や一階が雪で埋まっても大丈夫な「高床式住宅」など工夫がいっぱい!

一般社団法人魚沼市観光協会
魚沼市吉田1144
TEL：025-792-7300　FAX：025-792-7200
mail：kanko@iine-uonuma.jp

妙高山麓「雪の学校」

「雪」がテーマの体育・理科・社会

学びのポイント

- 雪の観察や実験を通して水の状態変化の不思議さを感じ、雪の性質を理解する
- 雪と共に生きる豪雪地帯の人々の暮らしの知恵や助け合って生きることの大切さを学ぶ
- スキー実習を通して体力を高め、初歩的な技術を身につける





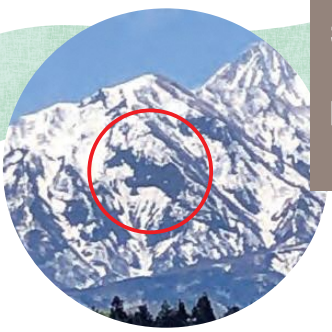
雪国の暮らしを体験「朝の雪かき」

「朝の雪かき」は、雪国の暮らしで欠かせない作業です。雪が降れば除雪をして家の周りに通路を確保します。除雪作業は、近所の人たちとの協力が不可欠で、皆で助け合って行います。雪かき体験をすることで、助け合って生きることの大切さを理解します。

雪を科学する

日本海からわずかな距離にそそり立つ妙高の山々。北からの季節風はこの山脈に当たり、膨大な量の降雪をもたらします。ここは雪の実験場。「雪がなぜ降るの?」「酸性雪ってなんですか?」などなど、実験や観察を通して雪にまつわるあれこれを科学します。

例
- 降ってくる雪を観察しよう
- 雪の結晶を作ろう
- 雪の性質を使ってアイスクリームを作ろう
- 雪の層構造から過去の天候を推測しよう
- 雪の不思議な現象を観察しよう



山が教えてくれる季節

春の風物詩である妙高山の「跳ね馬」。昔は、田植えの準備を始める農耕の目安でした。まだ気象に関する研究や、天気予報の技術が進んでいなかった当時の人々にとって雪形は、自然の変化を読み取り、農作業の適期を知るための生活の知恵だったのです。

スキー教室

1年の3分の1は雪に覆われている豪雪地帯の妙高市は、初心者からエキスパートまで大満足の様々なコースとベテラン指導員を揃え、スキー授業には最適な場所です。基本的な姿勢や滑り方を身につけ、斜面に応じて滑り方を工夫したり、スピードをコントロールしながら、ゲレンデを滑る楽しさを味わいます。楽しさや醍醐味がわかると自ら滑りたくなり、上達していきます。また、ゲレンデで滑るだけでなく、森の中を歩くスキー教室もあります。





雪国新潟の雪は結晶のまま降ってくることも多いので、肉眼でも雪の結晶を観察することができます。スキーウエアに降り積もる雪の様子を観察してみるときれいな形のままの結晶もみることができます。

妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会
妙高市大字関山6186-1
ハートランド妙高内
TEL：0255-82-3935　FAX：0255-82-3936
mail：info@myoko-gt.com

伝統文化を守る職人の想いにふれる

地域の風土や気候に育まれた「門出和紙」

学びのポイント

- 職人が技術や伝統を守っていくために行う努力や工夫などの話を伺い、実際に紙漉(かみす)きを体験することで地域の伝統文化への理解を深める
- 環状集落(かんじょうしゅうらく)や茅葺(かやぶき)屋根の家など農村の原風景を見学して歴史と伝統を学び、原風景を維持するための地域の取組を探る

なぜここで紙漉きが行われてきたの？

高柳町門出は、例年積雪が3mを超える豪雪地帯です。農業のかたわら冬の副業として行われてきた「紙漉き」。和紙の原料である楮(こうぞ)を育て、降雪前に刈り取り、雪に閉ざされた冬の間に一心に紙を漉く…生きる紙と書いて「生紙(きがみ)」と呼ばれる門出和紙。この土地で根付き、人々の生活を支えてきた和紙づくりと地域の気候や風土、材料のお話しなどを職人さんに伺います。

和紙の材料である楮やみつまたを育てることが里山の整備や環境保全につながることなどを学び、和紙づくりやものづくりに対する職人さんの想いについて質問したり、伝統文化を守っていくことについて考えてみましょう。



楮の白皮を雪面に並べて雪さらし。楮の皮に含まれる灰汁を雪が吸いつくし、雪面のオゾンの働きと冬の日差しが雪のような白さを創り出す。

厳しい寒さと雪が伝統を育む

紙漉きをしてみよう



繊維をばらばらにした楮とねり(とろろあおいの根)を船と呼ばれる大きな水槽のなかでよく攪拌します。簀(す)という竹ひごでできた網を桁(けた)という木枠ではさみ、ザブンとすくい取り、上下左右にゆすります。水が抜け、紙の形になります。水を絞り、乾燥させ、後日手元にお届けします。

和紙の長所ってなんですか？

手漉き和紙の原料は畑などで栽培される多年草の楮などが原料なので、森林を破壊することがありませんし、植物繊維のみでできているので、リサイクルが簡単です



手作りの温かみがあるね

原風景を守るためには？

「日本の農村百選」にも選出されている荻ノ島地区。街を囲むように茅葺きの民家が建ち並んでいます。日本昔ばなしに出てきそうな村の情景は、日本を代表する原風景のひとつです。

この原風景を守るために、除雪や草刈り、共同作業など、地域の人たちが安心して暮らし続けられるための新しい仕組みづくりに取り組むとともに、地域の暮らしに「共感」する人たちと深く交流し、支え合って取組の輪を広げています。



柏崎市
柏崎市商業観光課観光振興係
柏崎市日石町2-1
TEL：0257-21-2334　FAX：0257-22-5904
mail：shogyo@city.kashiwazaki.lg.jp

地域を知り、地域を学ぶ「織物文化とそば文化が融合した町」

小千谷市の特産品である「織物」と「そば」

なんの関係もないような2つが実は、つながっていた!!



秋、パッチワークの景観が広がる小千谷市。この地域でも新潟県中越大震災により、家屋や作業場が全壊するなど大きな被害を受けましたが、人々の強い絆が地域を復興へと導き、この美しい景観が復活しました。

伝統と故郷を守る「人の力」

学びのポイント

- 地域の自然や歴史、文化の関わりについて学び、理解を深める
- 地域の伝統文化の魅力について理解を深め、伝統を守る大切さを知る

どちらも布海苔(ふのり)を使っているんだね

ユネスコの無形文化遺産「小千谷縮(ちぢみ)」

平織りの麻織物である「越後上布」に「しぼ」という小さなしわをつけた小千谷縮は、江戸時代から伝わる小千谷の特産品。織物作りの工程中、そばの茎を燃やして作った灰汁を糸の漂白のために用いたり、布海苔(ふのり)が糸に張りを持たせるための糊として用いられるなど、縮とへぎそばは互いに大切な存在なのです。体験工房では伝統工芸士によるアドバイスを受けながら、短い時間であなただけのオリジナル織物が作れる体験ができます。普段、あまり接することのない機織りを体験し、手織物がどのようにできるかを理解しましょう。



海藻の「布海苔(ふのり)」



織物業に携わる家が多かったので、多くの家庭に布海苔があったんだね



豪雪地域でもある小千谷市では、雪解け水や昼夜の寒暖差などの豊かな自然環境が良質の米を作り、また、特産品の小千谷縮を作る工程でも麻生地を雪上にさらすことで漂白されるなど、あらゆるところで雪の恵みを受けています。自然が人々の暮らしに大きくかかわっていることについて調べてみましょう。

小千谷そば(へぎそば)

なぜ海から遠い小千谷に布海苔があったの?

米どころ小千谷市は、そばどころでもあります。「へぎ」とはそばを盛ってある四角い板状の器のこと。へぎそばの特徴はコシの強さと香り。淡い青みのつやのある麺肌。これらはつなぎに海藻の布海苔(ふのり)を入れることによって生み出されています。つなぎに布海苔を入れる発想は、織物作りに布海苔が使われていることからと言われています。布海苔を使ったそば打ち体験ができます。布海苔を使うことで、食感がどう変わるかも味わって体感してください。



小千谷市グリーン・ツーリズム推進協議会
おぢやファンクラブ事務局(サンプラザ)
小千谷市城内1-8-25
TEL：0258-83-4800　FAX：0258-82-1330
mail：info@ojiyafan.com

震災からの復興と伝統と故郷を守る「人の力」

「人々の故郷への想いと絆」が復興へと導く

学びのポイント

- 被災した人々の故郷の伝統文化を学び、地域がどんなところなのかを知る
- 「見る・聞く・体験する」防災学習を通じて、子どもたちが災害時に自分の命を守り、地域を守る世代に成長できるような知識を身につける
- 人と人とのつながりの大切さを認識する

「人々の故郷への想いと絆」が復興へと導いた…〔故郷（長岡市・小千谷市）の伝統を学ぶ〕

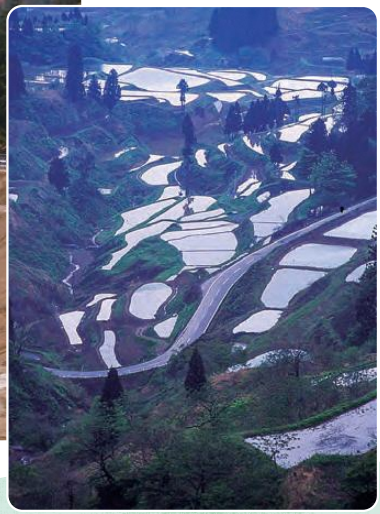
中越大震災で大きな被害を受けた山間の地域（長岡市太田、山古志、川口、小千谷市東山）は、その昔「二十村郷（にじゅうむらごう）」と呼ばれ、一帯の地域として、さまざまな交流を行ってきた地域でした。現在も、長岡市山古志、小千谷市東山で行われている「牛の角突き」は、神事としての伝統的習俗を持つ千年の歴史を受け継ぐものです。震災時には伝統を絶やさないために人々は必死で牛も一緒に避難させ、震災後、無事に再開にこぎつけました。

国指定重要無形民族文化財
「牛の角突き」



山古志闘牛場と小千谷闘牛場で5〜11月に開催





山古志の棚田と震災の爪痕

棚田と棚池からなる四季折々の美しい景色が広がる山古志。近年は人口減少や高齢化による担い手不足によって、この伝統的な景観の維持が難しくなってきていますが、住民の皆さんは、先祖から受け継いできたこの農地を一生懸命管理しています。このような風景や手掘りの「中山隧道」、震災の記憶の残るメモリアルパークなどを見学できます。

新潟県 中越大震災

2004年10月23日17時56分、長岡市川口地域を震源とするマグニチュード6.8の直下型地震が発生。最大震度7を観測したこの地震により、過疎高齢化が進む中山間地域は壊滅的な被害を受けました。多くの苦難の中から私たちが学び得たものは「人と人とのつながりの大切さ」、「地域コミュニティのありがたさ」、そして「普段からの備えの大切さ」でした。2011年10月、震災メモリアル拠点として震災の経験と教訓を後世に伝えていくことや防災の研究や学習、交流活動の場となることを目指して「中越メモリアル回廊」が整備されました。中越メモリアル回廊を活用した防災学習は、それぞれの学習目的に応じてさまざまな組み合わせが可能ですので、是非ご相談ください。

防災学習施設「中越メモリアル回廊」で学ぶ

「中越メモリアル回廊」主な施設

（他にもメモリアル施設の川口きずな館他3パークがあります）

●長岡震災アーカイブセンター きおくみらい

中越メモリアル回廊の中核施設としてさまざまな災害に対する「学び」を提供。小中学校の防災学習での利用に最適で、学年や知識に応じた見学案内、防災クイズ・ワークショップなどを取り入れた学習支援プログラムを提供しています。

●おぢや震災ミュージアム そなえ館

震災の経験と教訓を蓄積し、災害から自身や家族、地域を守れる防災人材の育成支援と次世代防災学習支援を行っています。普段の備えの大切さを災害時の疑似体験を通して養っていただく取組を続けています。地震発生の様子を体験型4Dシアター＋3D映像で、よりリアルに再現。直下型地震の凄まじさを疑似体験し、避難生活から復興までの様子を知ることで未来の災害に備えることの大切さを知ることができます。



そなえ館 座るだけで地震を体験できる「地震動シュミレータ」



避難生活の様子を再現



おらたる 地形模型シアター

●やまこし復興交流館 おらたる

震災体験から得た暮らしの中にある防災。そして「地域コミュニティ」を育んだ山の暮らしの様子を皆さんにご紹介します。

そして、学習を通し
①災害を自分の事として捉えることが大切なこと
②自分の住んでいる地域を知ることは防災にも繋がること
についてお伝えします。

各施設での学習の流れ

震災の概要を知る
- 震災の概要を学び、調べる
- 地震のメカニズムを学ぶ

→

見聞を深める
- 語り部さんからお話しを伺う
- 地震の現実を知る
- 地震の怖さを体感する

→

ワークショップで意見を出し合い普段からの防災や災害時の行動等について考え、学習成果を発表したり、新聞を作成したりする。

※学習の内容・目的に合わせた見学案内や、語り部・講師の紹介等を行っておりますので、各施設にお問い合わせください。

ながおかグリーン・ツーリズム推進協議会
長岡市 農水産政策課
長岡市大手通2-2-6 ながおか市民センター5F
TEL：0258-39-2223　FAX：0258-39-2284
mail：nousei@city.nagaoka.lg.jp

小千谷市グリーン・ツーリズム推進協議会
おぢやファンクラブ事務局（サンプラザ）
小千谷市城内1-8-25
TEL：0258-83-4800　FAX：0258-82-1330
mail：info@ojiyafan.com

農村生活体験・民泊体験＆探究学習

現場で見よう！聞こう！考えよう！

学びのポイント

- 農村生活体験や民泊体験で、ありのままの農村を体験する
- 現地の方との交流や体験活動を通して、生活に触れることで、「地域」について考える
- 山間地の暮らしに触れて、自分なりに地域貢献や社会貢献として何ができるかを考え、実践するきっかけづくり

奥阿賀地域で活躍する方々の仕事や暮らしに触れ、体験する

新潟県東蒲原郡阿賀町（奥阿賀地域）は、新潟県と福島県の県境に位置し、人口約11,000人、総面積の94%が森林に囲まれた中山間地域です。若者の流出による過疎化が進み、県内で第一位の高齢化率で限界集落化が進む奥阿賀地域で、現地の仕事や暮らしを取材・体験し、地域の方々とのふれあいを通して、奥阿賀地域や同じような課題を抱える地域に対して、「自分ができる」地域貢献や社会貢献を考えるきっかけづくりを目指します。







たきがしら湿原

耕作放棄地の活用

水田跡に作られた全国でも数例しかない湿原があります。「消滅した集落の姿を残したい」と願う住民の思いから人口湿原として後世に残すために整備したものです。

現在は、春から秋にかけて山野草が咲き乱れ、蛍が舞う美しい憩いの場所となっています。

ここでは、湿原ができた背景や管理・整備方法などから新しい発見や気付きを得ることで深い学びにつなげていきます。

地域の方々と交流しよう

奥阿賀地域には、気候や風土を活かした先人から受け継ぐ伝統産業、地域の素材を再発掘した地場産業があります。また、地域を元気にしたいと考える多くの企業や団体、地域住民の方々が活動しています。

豊かで美しい自然景観と、暖かい人々が暮らす奥阿賀地域で交流を通じて子ども達が自ら考え、探究学習ができるようお手伝いします。

奥阿賀地域の生活を体験しよう

民家宿泊体験や農村生活体験では、受入民家の方々とのふれあいを通し、ゆったりとした農村の時間の流れを感じることができます。

また、暖かい人情に触れ、子ども達が少しだけ「頑張れる自分」や「踏ん張れる自分」に出会える機会があり、達成感・やりがいを感じることができます。

都市部の暮らしにはない農村の方々の知恵や考え方などに触れ、都市部とは異なる不便な地域でありながら、「なぜ生き生きと楽しく暮らせるのか」を考えてみませんか。

（一社）阿賀町観光協会
東蒲原郡阿賀町津川3501-1
狐の嫁入り屋敷内
TEL：0254-92-0220　FAX：0254-92-0211
mail：office@aga-info.jp

城下町村上の「町屋再生プロジェクト」

観光客ゼロの町からの再生

学びのポイント

- 「地域活性化のお手本」と言われるまでに成功した「地域に残る町のお宝を活かしたまちづくりプロジェクト」について取材し、自分の住む地域に活かせるアイディアを考える
- 地域の伝統文化を学び、さらに地域を発展させるための方法を探る

地域の課題を解決するプロジェクトの内容を学び、人々の想いや成功に至る苦労話などを町で取材する



かつて城下町として栄え、戦火に遭わず残った町屋の街並みが、近年、アーケードやサッシ、トタンなどで町屋の外観などが覆われ、魅力が薄れた町になっていました。行政が突如打ち出した近代化計画に市民が抗い、地域活性化に取り組み、地域の宝「町屋」の再生を始めました。建物や塀など昔の姿に近づける取組やイベントを通して観光客ゼロの町から多くの観光客が訪れる町になった取組の内容を伺います。

実際に町に取材に行きましょう。昔にタイムスリップしたような町屋造りの建物の内部では、大きな大黒柱や豪快な吹き抜け、囲炉裏や梁などを見ることができます。「なぜ地域の宝となったのか」、建物や生活に残された先人達の知恵や工夫を学ぶとともに実際に町屋で生活する人々にインタビューしてみましょう。そして、今回の取材で得た情報を自分の住む地域の宝を活かすために何か役立てることはできないか考えてみましょう。





地域活性化イベント

春の「町屋の人形様巡り」や秋の「町屋の屏風まつり」では、普段は入ることのできない実際に生活をしているプライベート空間に飾られている人形や屏風を見ることができます。町のお宝を活かしたイベントを自分の住む地域でも考えてみませんか。





伝統工芸体験に挑戦!

村上の町屋には、酒屋、お菓子屋、お茶屋、漆器店、染め物屋など様々なお店があります。茶染め体験や漆器絵付け体験など城下町村上に伝わる匠の技にふれる体験をしてみましょう。なぜ、村上にそれらの伝統工芸が伝わったのか。また、伝えていく課題などを体験実習しながら取材しましょう。



村上地域グリーン・ツーリズム協議会
NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター
村上市猿沢1238
TEL：0254-72-0663　FAX：0254-72-0723
mail：info-tsukisara@tsukisara.org

微細米粉発祥の地「胎内」で米粉を学ぶ

聞いて・作って・味わって・調べて学ぶ

学びのポイント

- 地域の産業である「米粉」について、調理することや開発に携わっている人の話を通して、米粉の特徴をとらえ、特徴を活かした使い方を考える
- 米にかかわる様々な問題や米粉の可能性などについて興味・関心を高める

「米粉」ってどんなものか知ってますか？



米粉を使用した商品

「米粉」は、お米を細かく砕いて粉状にしたものです。最近、スーパーなどでよく見かけるようになりましたね。「米粉」は、日本では奈良時代から、もち米から作った「白玉粉」、うるち米から作った「上新粉」として、だんごやもち、羊羹など和菓子やおかき、おせんべいなどに使われてきました。近年、お米を細かく砕く技術が向上し、さらにいろいろな料理に使うことが可能になっており、パンやお菓子、うどんなどは小麦粉の代わりに「米粉」で作ることができます。また、グルテンフリーの米粉もあるので、小麦粉アレルギーの人も安心して食べることができます。

実際に米粉を使ってピザを作ってみよう








比較のために何班かは、小麦粉で作ってみましょう

粉を水に溶いた時のダマになる感じ、焼いた時の感じ、そして試食してみて実感した違いを表にしてみましょう

米粉工場で理解を深める

胎内市にある日本最大の米粉専用工場、新潟製粉㈱で米粉についてお話を伺います。この工場は、新潟県が技術開発した「微細製粉技術」による新しい米粉を、世界に先駆けて実用化するために設立されたモデル製粉工場です。米粉の開発や生産に携わっている方に、開発の理由、米粉の種類や特徴、米粉と小麦粉の違いについてなどのお話を伺い、「米粉」についての理解を深めます。

もっと調べてみよう

工場で学んだ米粉の活用や開発の内容から米の生産や消費についての様々な問題を考えて、米粉の特徴を生かした他の料理を試すなど、今回の体験をもとに米粉のこと、お米のことをもっと探求してみましょう。

胎内型ツーリズム推進協議会301人会
胎内市農林水産課農村交流係
胎内市新和町2番10号
TEL：0254-43-6111　FAX：0254-43-6979
mail：koryu@city.tainai.lg.jp

日本初の公立教育ファーム「新潟市アグリパーク」

農業に触れ、親しみ、農業を学ぶ

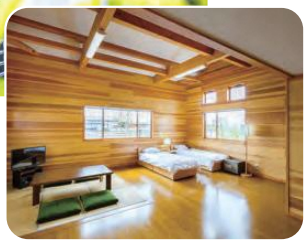
学びのポイント

- 農業の楽しさや大切さを学び、農業に対する理解を深める
- 郷土の豊かな食の恵みに感謝し、人との絆や命を大切にする心を育む



新潟市アグリパークでは、幼稚園や小・中学校向け、一般向けなど、子どもから大人まで幅広い年齢層の方が体験できる活動を用意しています。学校、園に向けては教育委員会が中心となって作成した農業体験学習「アグリ・スタディ・プログラム」を実施しています。「アグリ・スタディ・プログラム」とは生きる力を培うため、子どもたちが知識と体験を結びつけた学習ができるよう作成されたプログラムです。活動は主に、クラブハウス、体験ハウス、体験ほ場、体験畜舎で行いますが、果樹や稲作体験など、地域の農家の方と一緒に活動できる内容もあります。学校教師の指導のもと、新潟市アグリパークのインストラクターが進行し、各学校の教育活動のねらいが達成できるように努めています。





コテージ

各種体験ができる充実した施設

家畜の世話、搾乳、土作りや野菜の観察・収穫など、様々な農業体験学習をすることができます。また、自分で収穫した物をすぐに調理して食べたり、ソーセージやアイスクリームを作ったりといった加工体験もできます。充実した農業体験をするために、宿泊できるログハウス風のコテージも併設されています。農業体験学習のほか、友達との絆を深め、命の尊さや農業都市新潟の良さに気づかせる学習の場として活用していただけます。

アグリ・スタディ・プログラムの一例



・体験学習の大まかな流れと学びの内容
・単元の流れと単元における体験学習の位置付け
・体験学習時の指導略案　等が示されています。

新潟市アグリパーク
新潟市南区東笠巻新田3044
TEL：025-378-3109　FAX：025-378-3096
mail：info@niigata-aguri.com

SDGs未来都市で探究学習

民泊＋探究学習＝最強の教育旅行!?

学びのポイント

- SDGsの「持続可能な社会とは何か」をプログラムを通して学べます。
- 「調べる」「まとめる」力だけでなく、「課題を見つける」「協働する」力を養います。







ふるさとの自然と農業を守り続けるまち

農業従事者による妙高の農業についての講話と農業DX（ドローンや最新の田植え機、育苗の最新設備）の見学をし、持続可能な農業を学びます。





ハートランド妙高
（妙高山麓都市農村交流施設）

大自然とのふれあい、農家の方々との交流を通じて、食や農山村の文化、助け合いの心を学び、伝えてゆく妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会が運営する交流施設です。高原トマトやトウモロコシ等の野菜の収穫体験や妙高の郷土料理づくり等の調理体験、わら細工体験などができ、SDGs・探究学習ができる施設です。









野生のサルとの共生に取り組むまち

動物行動学・生態学の専門講師による講話と野生のサルの行動域調査体験をします。生物多様性の重要性や里山保全の重要性を学びます。





妙高戸隠連山国立公園内の大自然の中にある「国立妙高青少年自然の家」は、自然の中での活動プログラムを提供し、心豊かな青少年の育成を図る目的の施設です。国立妙高青少年自然の家の活動と民泊を組み合わせたプログラムも実施可能です。

妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会
妙高市大字関山6186-1
ハートランド妙高内
TEL：0255-82-3935　FAX：0255-82-3936
mail：info@myoko-gt.com

「スノーリゾート新潟」で体験するウィンタースポーツ

豊富な実績を持つビッグスケールのスキー場で、スキー・スノーボードを学ぶ

学びのポイント

- インストラクター付きスキーレッスンを雄大な自然の中で体験し、仲間との絆を深める。
- 首都圏からアクセス抜群!東京での研修と組み合わせやすい立地。



上越国際スキー場

新潟県のスノーエリアの特徴

アクセス抜群!

多くのスキー場が高速道路ICに近く、新幹線沿線に立地するため、楽々アクセスできます。

ホテルを出るとすぐゲレンデ!

ゲレンデとホテルが直結している所が多く、移動の負担を少なくすることができます。

ご要望に沿える環境!

ビッグゲレンデやファミリーゲレンデなど希望に合ったゲレンデを選べます。一校一館対応、ビュッフェ形式の食事などに対応している宿泊施設も多く、様々な要望に対応しています。

首都圏から新幹線で最短75分!

首都圏から近いため、都心のテーマパークやキャリア研修を十分な時間を確保しながら組み合わせることができます。

スキーだけじゃない魅力



苗場ゲレンデ花火



スノーシュー体験



津南空飛ぶランタン

新潟県は日本スキー発祥の地



新潟県の観光キャラクター「レルヒさん」

新潟県の観光キャラクターとして、スノーリゾート新潟のPRのため活躍しているレルヒさん。このレルヒさんのモチーフとなったのが、オーストリア・ハンガリー帝国の軍人、テオドール・エドラー・フォン・レルヒ少佐です。軍事視察を目的に来日し、1911年に上越市高田において、日本で初めて本格的なスキーの指導を行いました。雪上の移動手段として発展したスキーは、狩猟用や軍事用からスポーツとして進化を遂げ、上越市では日本初のスキー競技会も開催されました。レルヒ少佐が指導した「スキー」という新しいスポーツは、新潟から全国に広まっていったのでした。

新潟県観光文化スポーツ部観光企画課
新潟市中央区新光町4番地1
TEL：025-280-5254　FAX：025-285-5678
mail：ngt150010@pref.niigata.lg.jp

にいがたの農山漁村で生活体験

農山漁村生活体験には、決まったプログラムなどはありません。
それぞれの受け入れ先で、農作業や掃除・食事作りのお手伝いなど、
田舎の普通の日常生活をしていただきます。



学びのポイント

- 「農業・林業・漁業」がどういう職業なのか頭ではわかっていても、実際にどういうものかを知らない子どもたちが現場を見て、交流・体験することで、食物や農林水産業の大切さに気づき、それを守るために自分たちでできることを考えて実行するきっかけになる。
- 宿泊してじっくり農山漁村生活体験をすることで、農山漁村についての理解も一層深めることができ、農家民宿や農家泊等、普段とは異なる環境で児童・生徒同士が生活や作業を共にすることで連帯感が生まれ、共同作業の楽しさに気づく。また、異世代との交流を通して人間関係作りのためのコミュニケーション力を培うことができる。

※日程に合わせ、紹介した体験プログラム等を織り交ぜて充実した農山漁村生活体験ができます。各受入地域で実施可能です。また、ご紹介した以外にもさまざまなプログラムがありますので、是非ご相談ください。

新潟への交通アクセスガイド



上越新幹線
北陸新幹線
JR線
えちごトキめき鉄道
ほくほく線
高速道路
航路

空路でのアクセス

札　幌（新千歳）	新潟
成　田	新潟
名古屋（中部国際）	新潟
名古屋（小牧）	新潟
大　阪（伊丹）	新潟
福　岡	新潟
沖　縄（那覇）	新潟（季節運航）

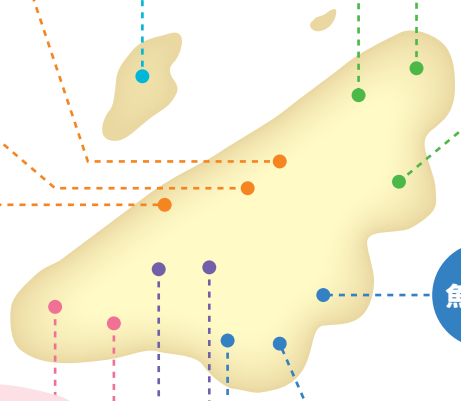
にいがた教育体験旅行 モニターツアー

随時受付中

「先生方の農山漁村における受入地域視察を支援します!」

新潟県の体験教育旅行に関心がある学校の先生方に対し、プランの立案、現地の状況など不安や不明なことを解決していただくために、ご都合の良い時に実施できる現地視察のフリープランをご用意しました。

- 申込方法／ご希望の地域の問い合わせ先へお申し込みください。(人数は2名以上でお願いいたします。)
- 参加方法／受入地域の指定集合場所にお集まりください。(出発地から受入地域の集合場所までの交通費は各自でご負担ください。)
- 費用負担／集合場所からの現地経費は受入地域で負担いたします。



佐渡市

両津港 集合 9時／解散 15時

①相川コース／金銀山遺跡、裂織(さきおり)・陶芸体験、磯遊び、トキ関連施設視察
②小木コース／砂金取り、たらい舟、太鼓体験、トキ関連施設視察
※一泊希望の場合は市の支援制度もありますので、事前にお問い合わせください。

- 問い合わせ先：(一社)佐渡観光交流機構
- TEL：0259-23-5230

胎内市

中条駅 集合 11時30分／解散 17時

米粉を使ったランチ(昼食)、集団宿泊施設等視察、市営サイエンス施設視察、農家民泊受入先訪問、受入体制などの説明

- 問い合わせ先：胎内市農林水産課農村交流係
- TEL：0254-43-6111

長岡市

長岡駅 集合 10時／解散 15時30分

やまこし復興交流館おらたる・木籠メモリアルパーク視察、共同牛舎・闘牛場視察、民泊農家・民宿の視察と交流(昼食)、手彫り中山隧道視察

- 問い合わせ先：ながおかグリーン・ツーリズム推進協議会(長岡市農水産政策課)
- TEL：0258-39-2223

村上市

村上駅 集合 10時／解散 15時30分

村上の体験視察(里山の環境学習、鮭の不思議、城下町村上、養蚕農村の暮らし)
宿泊施設視察

- 問い合わせ先：村上地域グリーン・ツーリズム協議会(NPO法人都岐沙羅パートナーズセンター)
- TEL：0254-72-0663

小千谷市

小千谷駅 集合 10時／解散 15時

季節の生活体験、闘牛とのふれあい、錦鯉の世話体験民泊農家で受入状況等の説明、山本山視察

- 問い合わせ先：小千谷市グリーン・ツーリズム推進協議会(おぢやファンクラブ事務局)
- TEL：0258-83-4800

阿賀町

津川駅(または新潟駅) 集合 10時／解散 16時

和紙のランプシェードづくり体験、各地区宿泊温泉施設視察と民泊受入先訪問よ昼食、緊急連絡先視察で連絡方法を説明
※新潟駅から直接送迎を希望される場合は事前にご相談ください

- 問い合わせ先：(一社)阿賀町観光協会
- TEL：0254-92-0220

柏崎市

柏崎駅 集合 10時／解散 16時

高柳地区の受入施設(じょんのび村、門出・荻ノ島茅葺きの宿)、子ども自然王国、夢の森公園視察

- 問い合わせ先：柏崎市商業観光課観光振興係
- TEL：0257-21-2334

魚沼市

小出駅(希望により浦佐駅も可) 集合 10時／解散 16時

奥只見ダム周辺視察、体験受入施設視察(目黒邸、笹だんごづくり会場等)
農家民宿の視察を兼ねた昼食、湯之谷・入広瀬・守門各地区宿泊施設等の視察

- 問い合わせ先：一般社団法人魚沼市観光協会
- TEL：025-792-7300

糸魚川市

糸魚川駅 集合 10時／解散 15時30分

ユネスコ世界ジオパークの糸魚川で、大地の魅力とヒスイ文化を学びます!地球の歴史を学ぶ博物館(フォッサマグナミュージアム)見学、ヒスイ探し等自然体験、漁港でセリ見学、宿泊施設等視察、受入状況説明

- 問い合わせ先：翠の里糸魚川ツーリズム推進協議会(糸魚川市観光協会)
- TEL：025-555-7344

南魚沼市

浦佐駅 集合 10時／解散 16時

季節の農村・生活体験、地元食(昼食)、織物体験と牧之通り散策、受入農家・施設で受入状況説明

- 問い合わせ先：南魚沼市グリーン・ツーリズム推進協議会((一社)南魚沼市観光協会)
- TEL：025-783-3377

妙高市

妙高高原駅 集合 10時30分／解散 16時30分

杉野沢農家民宿にて昼食を兼ねて郷土料理の笹寿司づくり、国立妙高青少年自然の家、民泊受入農家視察、ハートランド妙高にて見学と受入体制などの説明

- 問い合わせ先：妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会
- TEL：0255-82-3935

津南町

越後湯沢駅 集合 10時／解散 16時

季節の農村・生活体験、受入農家・宿泊施設、体験実習館なじょもん視察、河岸段丘、森林セラピーロード

- 問い合わせ先：津南町役場観光地域づくり課
- TEL：025-765-5454

上越市

上越妙高駅 集合 10時～11時頃／解散 16時頃

季節の農業・生活体験、自然体験、宿泊施設視察、民間受入家庭で受入状況説明と昼食

- 問い合わせ先：越後田舎体験推進協議会((公社)上越観光コンベンション協会)
- TEL：025-543-2777

十日町市

ほくほく線まつだい駅 集合 10時～11時頃／解散 16時頃

季節の農業・生活体験、自然体験、宿泊施設視察、民間受入家庭で受入状況説明と昼食

- 問い合わせ先：越後妻有田舎体験推進協議会(㈱HOME HOME NIIGATA)
- TEL：050-3553-4418



にいがたグリーン・ツーリズムセンター

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4番地1 新潟県農林水産部 地域農政推進課
TEL：025-280-5707　FAX：025-280-5336

にいがたグリーン･ツーリズム　検索

https://www.pref.niigata.lg.jp/site/green2rhythm/

2020年3月作成、最終更新2025年3月